

ラクオリア創薬株式会社

証券コード：4579



# 株主の みなさまへ

第16期 株主通信

2023年1月1日 ▶ 2023年12月31日



RaQualia  
innovators for life

株主のみなさまへ

## イノベーションの力で、 いのちに陽をもたらす



株主のみなさまには、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。また、令和6年能登半島地震で被災されたみなさまに、心からのお見舞いを申し上げます。

わたしたちはこれまで、新たな成長の糧となる医薬品候補の創出に向けて、創薬基盤の強化と開発パイプラインの進展に努めてきました。そしてこのたび、非連続の成長を具現化するために新しい「Mission・Vision・Value」を定めました。新たに策定したMissionは、「イノベーションの力で、いのちに陽をもたらす」です。

具体的なアクションの第一弾として、独自のプラットフォーム技術を有するファイメクス株式会社の株式を取得し、100%子会社化しました。

わたしたちは、このような自ら掲げたMissionを遂行する過程で、ステークホルダーのみなさまとの強固な関係を築き、企業価値の最大化を目指してまいります。みなさまのご期待に応えるべく、わたしたちは挑戦を続けます。引き続き、当社グループへのご理解とご支援を心よりお願い申し上げます。

2024年3月

代表取締役 武内 博文

## 2023年度の業績総括

当事業年度は、前年度に引き続き、上市品の4品目（[K-CAB®][GALLIPRANT®][ENTYCE®][ELURA®]）からのロイヤルティ収入が順調に増加しました。その他の導出済みプログラムについても、導出先およびサブライセンス先の企業での開発が着実に進展しています。また、5-HT<sub>4</sub>作動薬（RQ-00000010）について、ペット用医薬品向けのオプションおよびライセンス契約の締結にも至りました。しかしながら、当事業年度中の締結を目指していた胃酸分泌抑制剤テゴプラザンの日本国内のライセンス契約は成約に至らず、翌年度にずれ込むこととなりました。

自社の研究開発においては、グレリン受容体作動薬の自社開発に加え、創薬研究基盤の強化に取り組みしました。「モダリティ」、「創薬標的」、「疾患領域」および「基盤技術」という4つの切り口で、次世代の自社創薬バリューチェーンを確立することを目指し、自社単独の研究に加えてスタートアップ・創薬ベンチャーとの協業を進めました。

以上の結果、当社グループの2023年12月期連結累計期間の業績は、事業収益1,901百万円、営業損失337百万円、経常損失293百万円、親会社株主に帰属する当期純損失323百万円となり、2020年12月期以来の赤字となりました。

## 2024年度の取り組み

2024年12月期も引き続き、上市品からの安定的なロイヤルティ収入に加え、テゴプラザンの日本国内のライセンス契約締結による一時金獲得により事業収益を確保し、創薬研究基盤の強化にまい進します。

2024年2月14日に子会社化を発表したファイメクス株式会社は、標的タンパク質分解誘導剤という新たなモダリティとプラットフォーム事業を当社グループにもたらします。ラクオリア創薬とテムリックという既存の2社にファイメクスを加えた3社体制で、成長可能性の最大化と収益性の拡大を図り、企業価値の向上を実現します。

## TOPICS — トピックス —

1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
<ul style="list-style-type: none"><li>● テゴプラザンが中国で保険収載</li><li>● 米国FDAがタミバロテンをファストトラックに指定（骨髄異形成症候群）</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>● Vetbiolix社と5-HT<sub>4</sub>作動薬のペット用医薬品開発に関するオプションおよびライセンス契約を締結</li><li>● leadXpro社と協業を開始</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>● CB2作動薬の英国における第I相臨床試験開始に伴い一時金を受領</li><li>● テゴプラザンがインドネシアおよびシンガポールで販売開始</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>● テゴプラザンがペルーで販売開始</li><li>● テゴプラザンが中国における十二指腸潰瘍治療薬として適応承認</li><li>● Veritas In Silico社との共同研究においてマイルストーンを達成</li></ul>

# 特集

—Special Feature—

## 企業価値向上に向けてM&Aを実施

当社は、2024年3月26日、ファイメクス株式会社(本社 神奈川県藤沢市、代表取締役 CEO 富成祐介、以下「ファイメクス」)の株式を取得し、子会社化しました。

ファイメクスは、標的タンパク質分解誘導 (TPD) 技術を有するスタートアップ企業です。TPD技術を利用した新規医薬品については、すでに世界で複数の臨床試験が行われており、最も開発が進んでいるものは第II相臨床試験で有効性及び安全性が確認されるなど、医薬品としての実用化が近づいている新しい創薬モダリティです。

ファイメクスが保有するRaPPIDS™という独自のプラットフォーム技術は、新たな標的タンパク質分解誘

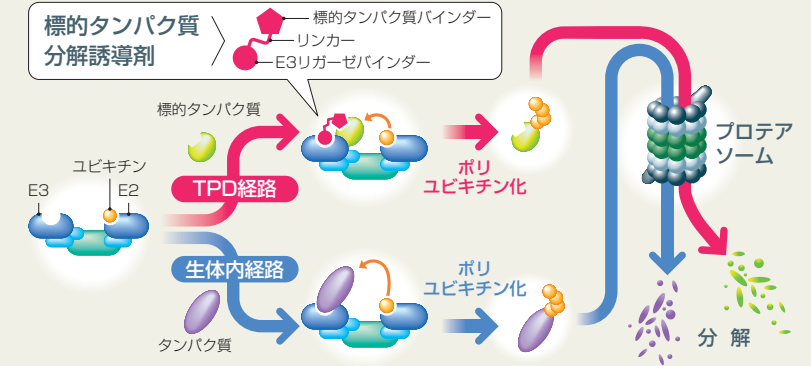
導剤の効率的な探索を可能とします。この技術を中核として、すでに国内大手製薬企業との共同研究を進めており、研究開発や商業化の進捗に応じて、将来、マイルストーンやロイヤリティ収入の獲得が期待されます。

ファイメクスの子会社化は、①プラットフォーム技術の獲得による創薬バリューチェーンの強化、②ビジネスモデルのハイブリッド化による収益の増加、③がん領域の拡充によるパイプラインの強化を通じ、経営資源、成長可能性の拡大、および収益性の拡大の全てにおいてシナジーが期待でき、グループ全体としての企業価値の向上に大きく寄与すると考えています。



## 標的タンパク質分解誘導 (Targeted Protein Degradation: TPD) とは?

標的タンパク質分解誘導 (TPD) 技術は、生体内におけるタンパク質の品質管理機構であるユビキチンプロテアソーム系を利用した創薬アプローチです。通常、不要なタンパク質はE3に認識され相互作用することで、分解の目印となるユビキチンが付加されます。ポリユビキチン化されたタンパク質はプロテアソームに運ばれて分解除去されます。標的タンパク質分解誘導剤は、この仕組みを利用した新しい創薬モダリティです。生体において不要なタンパク質とは認識されないものの、疾患に関連することから除去したい標的タンパク質に対して、標的タンパク質分解誘導剤によりE3と標的タンパク質を相互作用させることでポリユビキチン化し、分解へ導きます。



## TPD技術を応用した創薬でアンドラッグアブルを切り拓く

現在でもなお、十分な治療法が確立されていない疾患が数多く残されています。その中には、従来の創薬技術では対処が困難な標的 (アンドラッグアブルな標的) が原因となる疾患が含まれ、疾患の原因となるタンパク質の約66%がアンドラッグアブルな標的であるとも言われています。TPD技術の応用によって得られる標的タンパク質分解誘導剤は、従来アンドラッグアブルとされてきた標的タンパク質に対する創薬を可能にする新しいモダリティとして、世界で注目を浴びています。

ファイメクスの独自技術であるRaPPIDS™は、半自動合成による多検体合成技術を基盤とし、新規かつ多様な標的タンパク質分解誘導剤を迅速に合成で

きるシステムです。さらに、標的タンパク質の分解を試験管内 (in vitro) で直接評価するという実証的な手法により、疾患の原因となるタンパク質を狙い通りに分解できる医薬品候補の早期創出につながるとわたしたちは考えています。

標的タンパク質分解誘導剤は、数ある創薬モダリティの中でも低分子医薬品に近く、化合物の合成、分析、評価など、当社が保有する低分子創薬の基盤技術との組み合わせによる高いシナジー効果が期待できます。

今後は、ラクオリアとファイメクスの相互の強みを活かした創薬研究により、革新的医薬品の創出を目指してまいります。



## 社外取締役インタビュー



社外取締役  
土屋 裕弘

社外取締役(監査等委員)  
石井 幸佑

社外取締役(監査等委員)  
柿沼 佑一

社外取締役(監査等委員)  
宇津 恵

当社は2021年より新たな経営体制のもと、ガバナンスを強化する取り組みを進めています。この3年間の振り返りやラクオリアへの思いについて、社外取締役のみなさまにお話を伺いました。

### 当社の取締役会の印象

**宇津** 率直に意見を出し合える雰囲気があります。時に厳しい意見が出ることもありますが、全員の目標は共通なので前向きな議論ができています。

**土屋** 議題や決議、議事録にはまだ改善の余地があると感じます。

**石井** 2023年度より、取締役会実効性評価も開始しましたので、さらにより議論ができるように必要に応じた改善をしていきたいです。

**柿沼** 私の場合は、役員になる前から株主として会社に意見を述べることもありましたが、参考意見程度にしかならないという経験を何度もしてきました。今は、取締役会のメンバーとして、株主目線の意見も経営陣に述べるので、実現性の観点では役員になる前後では雲泥の差と思っています。

### 新体制の評価や大きく変わった点

**柿沼** 新しい技術やモダリティへの挑戦は大きく変わった点だと思います。尖った技術を持つ創薬ベンチャーを調査し、実際にいくつかの会社と共同研究が開始されています。ファイメクスも尖った技術を有する会社なので、創薬が不可能とされている疾患への医薬品創出を期待しています。

**宇津** 神経系疾患、がんなど新たな疾患への挑戦もポイントだと考えています。サイエンスと技術の進歩が著しく、競争が厳しい医薬品業界においては必要な挑戦だと思います。今は新たな挑戦を成果にしていくための大事な時期であると思っています。

**土屋** 新体制発足時に掲げたことがしっかりとできておらず、この3年間で大きな成果がないことは経営陣として反省すべき点です。

### 2024年度の当社の重点課題

**柿沼** まずはファイメクスを当社とともに成長軌道に乗せることです。ファイメクスのTPD技術は国内外屈指だと思いますし、当社の創薬基盤技術は、国内中堅製薬企業以上と思っています。両社の技術をかけあわせることで、世界的な創薬ベンチャーになることを期待しています。

**土屋** M&Aはリスクを伴います。業務執行にあたって、株主のみなさまはもとより、取引先や従業員を含む全てのステークホルダーが受けるリスクとベネフィットを考慮する必要があります。

**石井** 今年はテゴプラザンの日本における導出契約締結が重要と考えます。また、事業計画の目標に掲げている開発候補品の創出も急務です。監査の立場での目線としては、会社規模が大きくなることから、組織管理や子会社管理についても注視していきたいです。

### 株主のみなさまへのメッセージ

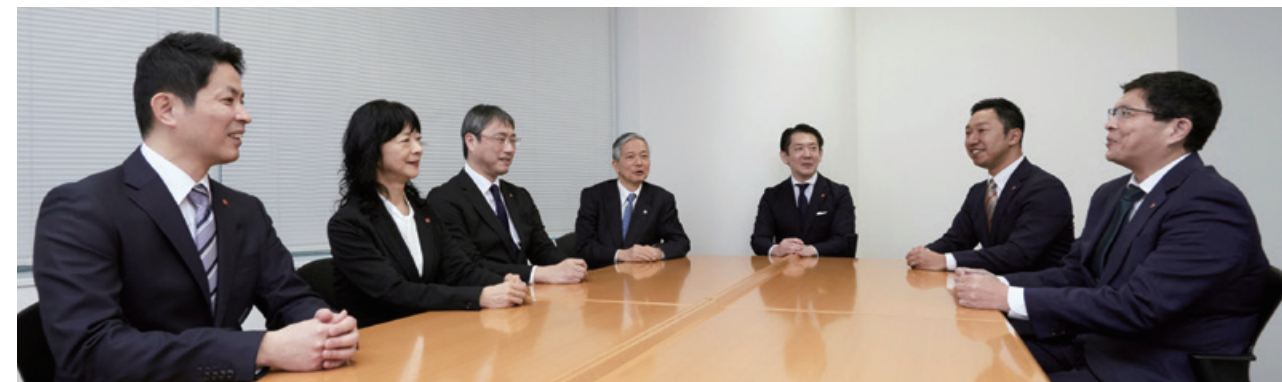
**土屋** 存在感のある創薬企業として発展していくことを期待します。

**柿沼** 当社はゼロから医薬品をつくることのできる数少ない会社と信じています。当社を応援してくださる株主の方々誇りに思えるような会社にしていきたいです。

**石井** 株主のみなさまをはじめ、従業員の方々も当社の経営理念に共感いただいていると考えています。一つひとつの成果を積み重ね、病に苦しむ患者さんのために、一丸となって当社のさらなる成長を進めていきたいです。

**宇津** 当社は多組織・多機能間での議論や調整の過程が少なく、新たな発想で挑戦しやすい環境にあると考えています。現在の治療を変えるような革新的新薬を創出し、患者さんに貢献できる会社になるために、経営陣と社外取締役間でもより一層議論を重ねていきたいと思っています。

今後も変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。



インタビューのフルバージョンは、当社ホームページにて掲載を予定しております。

# パイプラインの状況 (2023年12月31日現在)

## 主要な導出済みプログラム(ヒト)

→ ● : 2023年の進捗

プログラム名 一般名・製品名	導出先	主適応症	対象地域	前臨床	臨床開発			承認 申請	承認	販売
					フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3			
カリウムイオン競合型 アシッドブロッカー*1 (P-CAB) テゴプラザン K-CAB®/泰欣贊®/ Ki-CAB®	HKイノエン社	胃食道逆流症ほか	韓国・中国 フィリピン・モンゴル	○	○	○	○	○	○	● 販売中
			メキシコ・インドネシア・ シンガポール・ペルー	○	○	○	○	○	● 販売中	
			東南アジア3カ国 中南米15カ国	○	○	○	○	○	● 審査中または準備中	
			ブラジル	○	○	○	○	○	● 準備中 (Eurofarma社にサブライセンス)	
			米国・カナダ	○	○	○	○	○	● 実施中	
タミバロテン	Syrus社	骨髄異形成 症候群(MDS)	米国	○	○	○	○	○	● 実施中	
		急性骨髄性 白血病(AML)	米国	○	○	○	○	○	● 実施中	
CB2作動薬	AskAt社	化学療法誘発性 末梢神経障害ほか	全世界	○	○	○	○	○	● 実施中 (英国OCT社が実施)	
TRPM8遮断薬	Xgene社	慢性疼痛	全世界 (除く日本)	○	○	○	○	○	● 準備中	
ナトリウムチャンネル遮断薬	久光製薬 株式会社	慢性疼痛	全世界	○	○	○	○	○	● 実施中	

\*1 インドほか7カ国で臨床開発実施中です。

## 主要な導出済みプログラム(ペット)

プログラム名 一般名・製品名	導出先	主適応症	対象地域	POC 試験	パイロット 試験	ヒポタル 試験	承認 申請	承認	販売	
										EP4拮抗薬グラビプラント GALLIPRANT®/ガリプラント®
グレリン受容体作動薬 カプロモレリン ENTYCE®/ ELURA®/Eluracat®	Elanco社	食欲不振(犬)	米国	○	○	○	○	○	○	● 販売中
		慢性腎疾患に伴う 体重減少の管理(猫)	米国	○	○	○	○	○	○	● 販売中
		慢性疾患に伴う 体重減少の管理(猫)	欧州	○	○	○	○	○	○	● 承認
5-HT <sub>4</sub> 作動薬	Vetbiolix社	腸管運動障害 (犬・猫)	全世界	○	○	○	○	○	● 実施中	

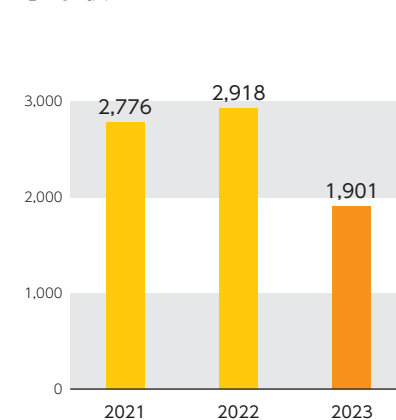
HKイノエン社: HK inno.N Corporation(本社:韓国・オソン)  
Syrus社: Syros Pharmaceuticals Inc.(本社:米国・マサチューセッツ州)  
OCT社: Oxford Cannabinoid Technologies Holdings plc(本社:英国・ロンドン)

Eurofarma社: Eurofarma Laboratórios S.A.(本社:ブラジル・サンパウロ)  
Xgene社: Xgene Pharmaceutical Co. Ltd(本社:香港)  
Elanco社: Elanco Animal Health, Inc.(本社:米国・インディアナ州)

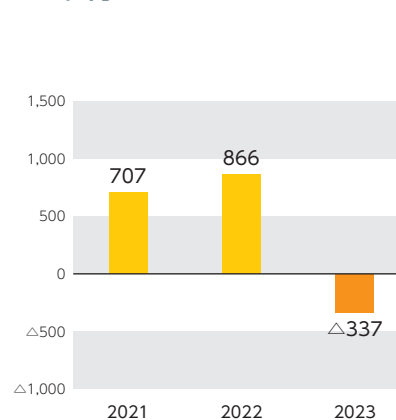
AskAt社: 株式会社AskAt(本社:愛知県名古屋)  
Vetbiolix社: Vetbiolix SAS(本社:フランス・ノール)

# 連結財務ハイライト

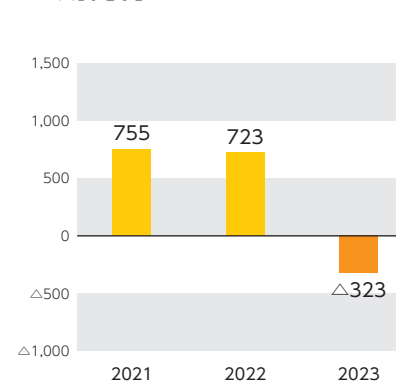
## 事業収益 (単位:百万円)



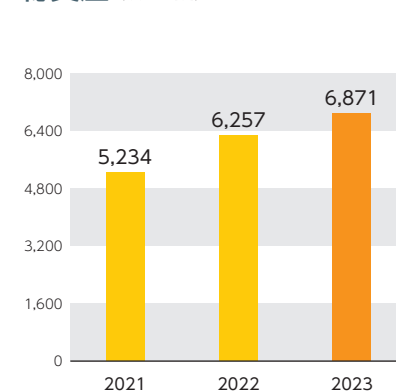
## 営業利益 (単位:百万円)



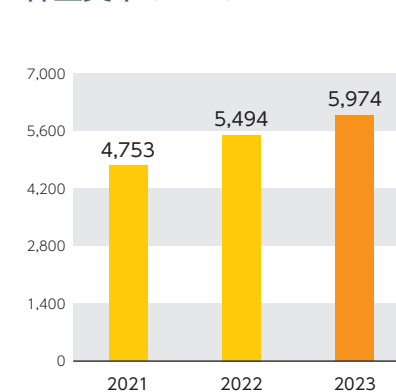
## 親会社株主に帰属する 当期純利益 (単位:百万円)



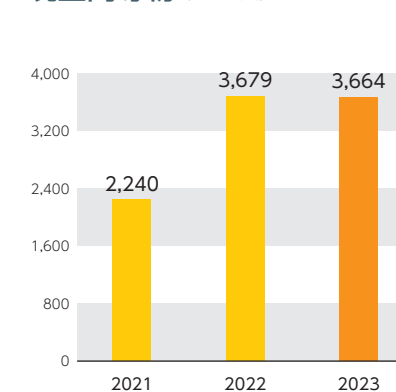
## 総資産 (単位:百万円)



## 株主資本 (単位:百万円)



## 現金同等物 (単位:百万円)



詳細情報は

<https://www.raqualia.com/ja/ir.html>

# よくあるご質問

四半期決算説明会オンライン配信の際や、当社ホームページからのお問い合わせ等におきまして、日頃より数多くの株主さまよりご質問を頂戴しております。お寄せいただいたご質問・ご要望の一部につき、回答させていただきます。

Q1

2024年12月期に事業進捗イベントで大きなインパクトが期待できるトピックスには何があるのでしょうか。

まずは2024年に期ずれとなった、テゴプラザンの日本におけるライセンス契約締結とELURA®のマイルストーン達成のニュースをお届けしたいと思います。そのほか、臨床第Ⅱ相以降の段階にあるパイプラインの結果も注目されることと見込み、ファイメクス発のニュースに関心をお持ちの方も多くいらっしゃると思います。株主のみなさまに朗報をお届けすべく、グループを挙げて取り組みます。

Q3

ファイメクスの買収資金は銀行借入とのことですが、借入金の返済計画はどのようになっているのでしょうか。新たな増資予定はないのでしょうか。

まずは銀行さまをはじめとする銀行各社から長期の借入を行うことができました。毎年の事業収益を返済原資に充てることを予定しており、返済のために増資を行うという予定はありません。借入による資金調達できたのは、テゴプラザンやペット用医薬品からの安定したロイヤルティ収入に加え、新たに当社グループに加わるファイメクスの事業のポテンシャルをご評価いただけたためと考えています。

Q2

今年発表された事業計画では、ファイメクスの事業収益目標が今後3年間で44億円と示されていますが、こういった内容のものを見込んでいるのでしょうか。

既存または新規の共同研究契約からの契約一時金およびマイルストーン収益を想定しています。毎年最低1件の新規契約の獲得という目標のほか、2022年から共同研究を行っているアステラス製薬さまとの共同研究の進捗にも期待しています。世界的にも注目度が高いTPD創薬のフィールドにおいて、技術を磨き実績を積み上げることで達成可能と考えています。

Q4

ファンミーティングや株主向けの説明会を開催して欲しいです。社長以外の取締役にも登壇してもらい、各担当役員の経営に対する考え方や自己評価を聞きたいです。

本年は昨年開催できなかったファンミーティングの開催を予定しています。事業目標をしっかりと達成することが第一ですが、その上で、事業の進捗や当社グループの新たな動きについて株主のみなさまにお知らせする取り組みを増やしてまいります。今後もご支援とご指導、ご鞭撻をよろしくお願いたします。

## 株主さまアンケートご協力をお願い

当社では、株主のみなさまの声を聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。(所要時間は5分程度です)

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(QUOカードPay500円)を進呈させていただきます

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です



①下記URLにアクセス ②アクセスコード入力後にアンケートサイトが表示

<https://www.e-kabunushi.com> **アクセスコード** 4579

.....以下の方法でもアンケートにアクセスできます.....



検索窓から  
いいかぶ



**kabu@wj.m.jp** ←こちらへ空メールを送信  
「件名」[本文]は無記入。アンケートのURLが直ちに自動返信されます。



スマートフォンからカメラ機能でQRコード読み取り→  
QRコードは株式会社デンソーウェブの登録商標です。



本アンケートは、株式会社リンクコーポレートコミュニケーションズの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。 <https://www.link-cc.co.jp>

アンケートのお問い合わせ 「e-株主リサーチ事務局」  
MAIL: [info@e-kabunushi.com](mailto:info@e-kabunushi.com)

# 株式の状況／会社概要 (2023年12月31日現在)

## 株式の状況

発行可能株式総数	37,068,800株
発行済株式の総数	21,623,281株
株主数	11,924名

## 大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
柿沼 佑一	2,384	11.03
ファイザー株式会社	743	3.44
BOFAS INC SEGREGATION ACCOUNT (常任代理人 BOFA証券株式会社)	630	2.91
上田八木短資株式会社	286	1.32
東京短資株式会社	270	1.25
株式会社アドバンスト・メディア	223	1.03
株式会社エス・ビー・シー	205	0.95
田名後 貴裕	180	0.83
植村 幸雄	145	0.67
香本 育良	137	0.63

## 株主メモ

事業年度	毎年1月1日から同年12月31日まで
定時株主総会	毎年3月
基準日	定時株主総会の基準日 毎年12月31日 期末配当金の基準日 毎年12月31日 なお、中間配当を実施するときの基準日は6月30日です。その他必要のあるときは、あらかじめ公告して定めます。
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	名古屋市中区栄三丁目15番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

## 会社概要

社名	ラクオリア創薬株式会社
所在地	〒450-0003 名古屋市中村区名駅南一丁目21番19号 名駅サウスサイドスクエア8階
事業内容	医薬品の研究開発 医薬品、臨床開発候補品およびこれらに関わる基盤技術の知的財産の販売および使用許諾 企業および大学との生物医学分野における知的財産の開発および販売を目的とした提携
設立	2008年2月19日
資本金	2,667百万円
従業員	67名(連結)
連結子会社	テムリック株式会社

## 取締役 (2024年3月26日現在)

代表取締役	武内 博文	社外取締役	土屋 裕弘
取締役	須藤 正樹	社外取締役 (監査等委員)	石井 幸佑
取締役	宇都 克裕	社外取締役 (監査等委員)	柿沼 佑一
		社外取締役 (監査等委員)	宇津 恵

郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	電話番号 0120-782-031 (フリーダイヤル) 受付時間 9:00~17:00(土日・祝日を除く) 取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店で行っております。
(インターネットホームページURL)	<a href="https://www.smbt.jp/personal/procedure/agency/">https://www.smbt.jp/personal/procedure/agency/</a>
上場取引所	東京証券取引所グロース市場
公告方法	電子公告を当社ホームページにて行います。やむを得ない事由による場合は日本経済新聞に掲載し、公告いたします。(https://www.raqualia.com/ja/index.html)

●住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先については、株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。



## ホームページ リニューアルのお知らせ



この度、当社のホームページを大幅にリニューアルいたしました。今回は、わたしたちの進むべき道として定めた「Mission・Vision・Value」のご紹介のほか、当社の事業や研究開発についてより分かりやすくお伝えできるよう、新たなコンテンツも追加いたしました。ぜひ、ご覧ください。

今後とも、より見やすく、より使いやすいホームページとなるよう、さらに運営を進めてまいりますので、何卒よろしくごお願い申し上げます。

<https://www.raqualia.com/ja/index.html>

※2023年5月よりホームページのURLが変更となりました。  
「お気に入り」「ブックマーク」等のご登録アドレスの変更をお願いいたします。



当社のプレスリリースや決算発表等の情報をタイムリーにお知らせする  
IRニュースメールにぜひご登録ください。

ラクオリア ニュースメール

検索



### ラクオリア創薬株式会社

〒450-0003  
名古屋市中村区名駅南一丁目21番19号  
名駅サウスサイドスクエア8階



見やすく読みまちがえにくい  
ユニバーサルデザインフォント  
を採用しています。